

**授業概要**

人間文化学科に所属する7人の教員が「自然、人間、超自然」をテーマに、それぞれの専門分野に即して講義し、問題提起する。歴史、文学、言語、文化の多様な領域を横断するバラエティに富み、かつ知的好奇心を刺激する内容の講義が展開される。学生も、教員に劣らぬ知的好奇心と熱意をもって受講してもらいたい。

**授業計画**

第1回	西山 ガイダンス
第2回	熊田(1)「人間のイメージ」—語源の背後にある思想とともに
第3回	熊田(2) natureの語源 —「生み出すもの」から「自然」へ
第4回	掛野(1)「自然」を描く—日本近代文学の場合
第5回	掛野(2)「超自然」を描く—日本近代文学の場合
第6回	湯浅(1) 陰陽五行説によって森羅万象を読み解く
第7回	湯浅(2) 天体の運行を人間世界に映し出す
第8回	山部(1) 古典文学の中の人間と自然—「霞」の色は何色か
第9回	山部(1) 古典文学の中の人間と超自然—人の死と奇瑞
第10回	福島(1) 闘争は人間社会の必然か
第11回	福島(2) 映画『私は貝になりたい』に見る戦争と人間
第12回	伊藤(1) 奴隷貿易—人間の『自然』なお値段のつけ方とは
第13回	伊藤(2) 同上
第14回	西山(1) 小泉八雲とカリブ海のゾンビの物語
第15回	西山(2) 小泉八雲と多文化的妖怪・幽霊の物語
第16回	レポート試験

**到達目標**

- ①さまざまな学問分野について興味関心を持ち、自分なりに考えることができるようになる。
- ②提起されるテーマについて自ら考え、調べ、発信できるようになる。
- ③自ら問題提起ができるようになる。

**履修上の注意**

教室に座って板書を書き写すだけの時間にしてはならない。授業では特定のテーマについて答えを教えるのではなく、問題提起を行うことになる。それについて自ら資料を集め、思考し、結論を出し、それを文章化する作業を行うことが必要である。各講義は2回だけなので、欠席しないようにすること。

**予習復習**

シラバスに記載されたキーワードについて調べておくことが予習になる。また、各担当回終了ごとに課題が出されるのでそれに答えることが復習となる。

**評価方法**

7人の担当者がそれぞれの担当回で評価し、それを合計して全体評価とする。

**テキスト**

統一テキストは使用しない。教材は各担当者が授業内で配布する。